

別紙様式3

平成29年度 第2回 地域連携による活力ある高校づくり推進事業協議会 議事要旨

日 時	平成30年1月23日(火) 地域類型発表を見学後、会議を実施
場 所	東濃高校 会議室
出席者 (敬称略、 委員名は 50音順)	<p>(委員)</p> <p>伊藤 英生 岐阜県議会議員 衛 紀生 可児市アーク館長 小原 尚 岐阜県議会議員 鍵谷 欣弘 学校評議員(東海化成工業総務人事課) 籠橋 義朗 可児市教育長 嶋崎 友美 東濃高校PTA会長 高木 俊朗 御嵩町教育長 田中 妙子 学校評議員(地域代表(税理士)) 堀 勝弘 御嵩町立向陽中学校校長 渡邊 公夫 御嵩町長、東濃高校同窓会長</p> <p>(高校)</p> <p>平井 学 校長 片山 澄美 教頭 林 靖 教頭 林 博志 事務長 吉田 益穂 教務主任 大島 直人 生徒指導主事 三田村隆広 進路指導主事</p> <p>(県教育委員会)</p> <p>下野 宗紀 教育総務課課長補佐</p>
議事概要	<p>1 御嵩町との連携によるキャリア教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年間にわたる本校のキャリア教育の活動が認められ、文部科学大臣表彰を受けることができた。こういったことを通じて生徒は自信を持ち始めているが、進路実現においては、学力問題の壁にぶつかっている現状もある。今後はいかに学力を向上させ、就職試験等を突破させるかが課題である。 ・文部科学大臣表彰は、地域での授業や1年生のキャリア教育プログラムなどの積み重ねによるもので喜ばしいことだ。演劇表現ワークショップ等によるコミュニケーション能力の育成については、一定の成果が出ている現状で、この手法のエッセンスの制度化を行うとともに、学力問題については、個々の生徒へのサポート体制の確立が必要である。 ・今日の地域類型の生徒発表を見て、少しずつではあるが、東濃高校のやっていることについて成果が現れてきていると感じた。学校として生徒の導き方が見えてきているのではないか。生徒に高見を目指させ、個性を持たせるように指導していただきたい。御嵩町が主催している防災士講座は、防災リーダーの育成を目指すもので岐阜県のトップを走っている。東濃高校の成果をメジャーなニュースにすることが大切である。

- ・ 東濃高校は外国籍生徒が多く入学していること、ロボコンで実績を上げていることなど、特色のある学校だと認識している。数多く在籍する外国籍の生徒が、地域類型を選択して、地元について学ぶようになるとよい。一つのことを伸ばすことができる学校を目指して欲しい。
- ・ 授業の中でK J 法を学んでいることに感心した。少子高齢化についての発表は、御嵩町だけでなく岐阜県や全国まで視野を広げてほしい。当社に在籍する東濃高校の卒業生が、1年生のキャリア教育プログラムにおいて、当社の説明をする予定である。このようなつながりを大切にしていきたい。

2 学校の魅力の発信について

- ・ 中学校の先生に東濃高校の良さを知ってもらう努力が必要だと感じた。様々な機会を捉えて、東濃高校のよさをアピールしてほしい。多様な生徒が学ぶことができる学校であり、地域にとって大切な存在である。
- ・ 近所に住んでいるが、東濃高校のことをよく知らなかった。一般の人に知ってもらうには、新聞等に掲載されることが一番だと思う。
- ・ 新聞等への掲載が増えていることは、世間に見られる機会が増えることでもあり、それが生徒の自信につながっている。

3 その他

- ・ 外国籍の生徒たちが、小学校の英語の授業に参加してくれて大変有り難い。来年度は、中学校にも拡大したい。
- ・ 東濃高校が目指す「地域に貢献できる人材の育成」は、教育行政の「Tax Payer を育てる」ことに合致している。全国の高校中退者を減らすことは40兆円の損失を防ぐ効果があるとも言われている。演劇表現ワークショップ等を通じて、「他者」と関わることができ、「普通」に暮らせる一人前の生徒を育てて欲しい。
- ・ 高校では自主性を育てて欲しい。今、世の中は人手不足である。地元就職し貢献する人材を育てて欲しい。